

令和6年度事業報告書

公益財団法人肥後医育振興会

熊本県における医学振興に必要な教育・研究の助成及び委託事業を行い、もって地域医療の向上と県民の健康増進及び日本国内外の医学・医療の進展に寄与するため、次の事業並びに支援を行った。

1. 医学教育・研究の助成（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する若手の個人又はグループに対して学術奨励賞を授与するため公募を行い、20名の応募者の中から選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に「肥後医育振興会学術奨励賞」ならびに1件15万円の副賞を授与した。

アナン ケイスケ

阿南 圭祐（済生会熊本病院 呼吸器内科 医長）

クヤマ ナオト

九山 直人（熊本大学大学院生命科学研究部 心血管予防医学共同研究講座 特任助教）

コスミ ケイスケ

小澄 敬祐（熊本大学病院 消化器癌先端治療開発学寄附講座 特任助教）

ミヤウチ ユウ

宮内 優（崇城大学 薬学部薬学科 講師）

2. 医学国際交流の支援（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する外国人留学生に対して奨学金を授与するため公募を行い、5名の応募者の中から選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に奨学金を授与し「肥後医育振興会優秀留学生表彰」を付与した。

ソン ウケン

孫 宇軒 熊本大学大学院医学教育部（消化器外科学）
博士課程1年（中国）

チン ガクダチ

陳 学達 熊本大学大学院医学教育部（血液・膠原病・感染症内科学）
博士課程1年（中国）

ギョウ シイ

牛 子威 熊本大学大学院医学教育部（中枢性代謝制御学）
博士（研究生）（中国）

ジン サンウ

Jin Sangwoo 薬学部薬学科3年（韓国）

3. 熊本県民への医学医療情報提供活動（公2，公3，収1）

(1) 「肥後医育塾」公開セミナーの開催（公2）

県民に対して、定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに考える健康と医療を目指す目的で、第1回と第3回は一般財団法人化学及血清療法研究所並びに熊本日日新聞社との共催で、また、第2回は熊杏会も加わり市民公開セミナーを年3回開催した。

年間テーマに「感染症の色々：無病息災のために知っておきたい予防策」を取り上げ、3回の講演会を行うとともに、後日、熊本日日新聞紙上で「肥後医育塾」特集を2頁に亘って掲載し、YouTube 公開を並行して行った。

第1回は「がんの原因となるウィルス～予防のために出来ること～」の演題で、令和6年8月4日に熊本市医師会館で開催し、聴講者約170人の参加があった。

コーディネーター（司会） 片渕秀隆氏（肥後医育振興会副理事長）

座長 片渕秀隆氏（肥後医育振興会副理事長）

安永純一朗氏（熊本大学大学院生命科学研究部

血液・膠原病・感染症内科学講座 教授）

講演①「がんを引き起こすウィルスをご存じですか

～九州地方に多い血液がんを中心に～」

講師 七条敬文氏（熊本大学大学院生命科学研究部

血液・膠原病・感染症内科学講座 助教）

講演②「肝がんと肝炎ウィルス」

講師 瀬戸山博子氏（熊本大学病院肝疾患センター 副センター長）

講演③「中咽頭がんとヒトパピローマウィルス」

講師 宮丸悟氏（熊本大学病院耳鼻咽喉科頭頸部外科 講師）

講演④「子宮頸がんとヒトパピローマウィルス～身近なウィルスが原因です～」

講師 永井隆司氏（くまもと森都総合病院 産婦人科部長）

講演⑤「HPVワクチンの実際」

講師 高木みか氏（熊本医療センター統括診療部診療部長 産婦人科部長）

第2回は北里柴三郎記念感染症セミナー「熊本が生んだ近代医学のヒーローから新時代の感染制御へ」の演題で、令和6年11月10日に熊本市医師会館で開催し、聴講者約100人の参加があった。

コーディネーター（司会） 片渕秀隆氏（肥後医育振興会副理事長）

座長 門岡康弘氏（熊本大学大学院生命科学研究部 生命倫理学講座 教授）

佐藤賢文氏（ヒトレトロウイルス学共同研究センター

ゲノミクス・トランスクリプトミクス分野 教授）

講演①「柴三郎の偉業と現代医学への足跡」

講師 高橋元秀氏（熊本保健科学大学 生物毒素・抗毒素共同研究講座 特命教授）

講演②「破傷風、身近な危険を探る」

講師 志多田千恵氏（熊本保健科学大学 特命助教）

講演③「知っておきたいワクチンのしくみ」

講師 佐藤賢文氏（ヒトレトロウイルス学共同研究センター

ゲノミクス・トランスクリプトミクス分野 教授）

講演④「自分そして周りのことを考えてワクチン接種を決めよう」

講師 門岡康弘氏（熊本大学大学院生命科学研究部 生命倫理学講座 教授）

共催者挨拶 遠藤文夫（熊杏会 会長）

後援団体代表挨拶 木下統晴（学校法人銀杏学園 理事長）

第3回は「新興・再興感染症の不思議～正しく知って正しく防ぐ～」の演題で、令和7年2月8日に人吉カルチャーパレスで開催し、聴講者 約60人の参加があった。肥後医育塾の熊本市以外での初めての開催となった。

コーディネーター（司会） 片渕秀隆氏（肥後医育振興会副理事長）

座長 松下修三氏（肥後医育振興会 理事長）

薬師寺俊剛氏（人吉医療センター院長）

講演①「新興・再興感染症とは？」

講師 中田浩智氏（熊本大学病院 感染制御部 部長）

講演②「いま地域でとりくむ予防策」

講師 田浦尚宏氏（人吉医療センター 副院長）

講演③「あなたの身近にある新興・再興感染症～呼吸器感染症を中心に～」

講師 岡本真一郎氏（熊本大学病院 新興感染症対策寄附講座 特任講師）

講演④「新興・再興感染症の不思議 ～ウィルスはどこから来たのか、ウィルスと
は何者か、ウィルスはどこへ行くのか～」

講師 松下修三氏（熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究講座 特任教授）

(2) 第15回「熊本県医療人育成総合会議」の開催（公3）

本年（2024年）度は、多くの医療系専門学校に入学人数定員割れを引き起こした。この18歳人口の急峻な谷は、出生率が激減した1966年丙午（ひのえうま）世代のジュニア世代の低人口によるものだが、それは近未来の18歳人口激減時代を予行するものとなった。教育においては、従来の教育課程の内容に適合する入学者の選抜から、入学してくれる学生の資質に適合した教育方法の模索へとの変更が迫られている。一方で、団塊の世代の後期高齢化で医療需要はピークを迎えつつあり、しかもその世代の消滅後は医師過剰時代到来の予測もある。つまり、組織的な医療人育成にとって、人口動態が直接の環境あるいは外圧となる時代を迎えている。人口動態を基調とした医療人育成に如何に取り組めばよいのか、方策の糸口をつかむために医療人、教育者、学生の知恵を出しあって討議を行った。

なお、開催に関しては実行委員会を設置し会議の内容の詳細を企画・立案した。

参加対象者は、医療関係の大学・専門学校等の教育関係者、各医療技術者協会の代表者、病院関係の代表者、行政関係の担当者のほかに新聞等で学生や一般参加者も募り約100名の参加があった。後日、熊本日日新聞紙面で掲載し、YouTube公開を並行して行った。

第15回熊本県医療人育成総合会議の実施概要は次のとおり。

テーマ 「18歳人口激減下の医療人育成」

日時 令和6年11月4日（月・振休）

会場 熊本県医師会館

司会 熊本大学医学部長

尾池雄一氏

熊本大学医学部医学科教育・教務委員長

武笠晃丈氏

特別講演① 「人口減少社会における医療・介護人材～その動向と展望」

講師 国立社会保障・人口問題研究所所長

林 玲子氏

特別講演② 「人口減少社会下における医療人育成について」

講師 文部科学省高等教育局医学教育課長

俵 幸嗣氏

講演① 「18歳人口減少と医学教育」

講師 熊本大学大学院生命科学研究部総合医学教育学講座 教授

吉田素文氏

講演② 「Z世代の看護職の人材確保と育成」

講師 熊本大学病院副看護部長

田邊菜穂子氏

講演③ 「人口構造の変化に対応した薬学教育」

講師 熊本大学病院副薬剤部長／

熊本大学大学院薬学教育部臨床薬学動態学分野 准教授

城野博史氏

- 講演④ 「18歳人口激減下におけるリハビリテーション専門職育成の現状と課題」
講師 熊本総合医療リハビリテーション学院副院長兼教育部長 坂崎浩一氏
講演⑤ 「外国人介護福祉士の育成と重要性」
講師 九州中央リハビリテーション学院介護人材教育部長 野島謙一郎氏
講演⑥ 「18歳人口激減下の医療人育成—私立中学高等学校進路指導の立場より」
講師 真和高等学校進路指導部長 西島孝一氏
(学生実習を受ける各領域の学生を交えた討論)

司会 熊本大学大学院生命科学研究部 総合医学教育学講座 教授 吉田素文氏
学生 医学生、薬学生、看護学生 六名

(3) 生活情報紙「SPICE」の健康・医学・医療、その他関連記事の編集及び刊行 (収1)

熊本日日新聞社が発行するタブロイド版の総合情報紙「SPICE」の第4金曜日号の見開き2頁を使い、健康・医学・医療並びに医学に隣接した学問分野の学術情報を県民に提供することとなった。内容としては、以前と同じく「元気の処方箋」(最新の医学医療記事)、「子育て応援クリニック」(小児科関連の医学医療記事)及び「慈愛の心・医心伝心」(医療人のリレーエッセイ)を掲載した。以下に「元気の処方箋」のテーマを記載する。

- 4月 熊本地震から八年 改めて考えたい災害時の医療
- 5月 治療のタイムリミットに注意を 幼児の「弱視」
- 6月 心臓の血流が悪くなり機能が低下 虚血性心疾患に注意
- 7月 決して他人事ではない 性感染症
- 8月 診断や予防に役立つ 遺伝診療
- 9月 月経にまつわるトラブル
- 10月 症状・程度はさまざま 更年期障害
- 11月 幅広い年代に湿疹やかゆみ アトピー性皮膚炎
- 12月 早期発見の重要性と最新の治療 胃がんの基礎知識
- 1月 新たな治療法が次々に登場 悪性リンパ腫
- 2月 社会の高齢化と共に 膵がん
- 3月 健康維持に欠かせない臓器 腎臓にもっと関心を

4. 医学・生物学領域の学会・シンポジウムの助成(公4)

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する次の医学・生物学領域の学会やシンポジウムに対して助成した。

- ① 第24回日本抗加齢医学会総会(R6.5.31~6.2開催)
- ② 第60回日本肝臓学会(R6.6.13~15開催)
- ③ 第37回日本臨床整形外科学会学術集会(R6.7.14~15開催)
- ④ 第13回日本小児在宅医療支援研究会(R6.9.21開催)
- ⑤ 第6回熊本大学医学教育部DDP記念シンポジウム(R6.11.12開催)
- ⑥ 第39回熊本医学・生物科学国際シンポジウム(R6.11.21~22開催)
- ⑦ 第37回日本総合病院精神医学会(R6.11.29~30開催)
- ⑧ 第18回日本性差医学・医療学会学術集会(R7.1.12~13開催)
- ⑨ アルポート症候群国際ワークショップ(R7.3.21開催)

5. 医学・生物学領域の研修会・教育セミナー等の助成（他1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する次の医学研究会並びに研修会等に対して助成した。

- ① 熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成事業（R6. 4. 1～R7. 3. 31 開催）
- ② 令和6年度熊本県女性薬剤師会研修会（R6. 4～R7. 3 開催）
- ③ 令和6年度日本生化学会九州支部例会（R6. 6. 22～23 開催）
- ④ 医療薬学フォーラム 2024/第32回クリニカルファーマシーシンポジウム（R6. 7. 6～7 開催）
- ⑤ 第25回熊本エイズセミナー（R6. 7. 17～18 開催）
- ⑥ 第4回 KEYFORUM 国際シンポジウム（R6. 11. 20～21 開催）
- ⑦ 第44回日本看護科学学会学術集会（R6. 12. 7～8 開催）
- ⑧ 第23回熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ（R7. 3. 26 開催）

6. 広報活動事業（他2）

- (1) 本財団の活動状況及び財政状況等を周知するために、広報紙「ニューズレター 29号（A4判 28頁）」を3,000部発行(R6.8.31)し、関係者へ配布するとともに本財団のホームページ上で内容を県内外に公開した。
- (2) ニュース性の高い分かりやすいホームページを目指し、肥後医育塾及び熊本県医療人育成総合会議のYouTube公開やスマートフォン対応など、本財団の多彩な活動内容を県内外に公開した。